

義人は信仰によって (マルコ 14:12-18)

神様のみことばをよく守ることが信仰生活とすることがありますが、信仰生活とは神様がなさることを信じることです。(創世記 15:6、ローマ 1:17) 信じるときに、どのようなことが起こるのでしょうか。

1. 神様が私のためにすでになさったことを信じる時、自分を祝福の人と見るようになる。

1) 神様がすでになさったこと

みことばを守ることが基準ではありません。正確に言うと、神様のみことばは守れないので、イエス・キリストが代わりに守ってくださいました。十字架のキリストを信じると、みことばを守ったことになるのです。

神様は、十字架ですべて完了してくださいました(ヨハネ 19:30)。罪に定められないように、罪と死の原理から解放してくださいました(ローマ 8:1-2)。生まれながら御怒りを受けるべき子だったのに、聖霊が宿る神の神殿にしてくださいました(エペソ 2:3)コリント 3:16)。悪魔の子だったのに、神様をアバ父と呼べる神の子どもにしてくださいました(ヨハネ 8:44)ローマ 8:15)。イエスをキリストと信じるようにしてくださいまして、誇ることは自分の弱さであること、神様の恵みは十分であると告白できるようになりました。自分の弱さが神様の強さを現すのです(コリント 11:30)12:9-10)。四方八方から、どんな問題が迫ってきても、いっさい問題になりません(コリント 4:8-9)。すべてを働かせて益とされるように、キリストによって完了されました(ローマ 8:28)。死んだら天国に行く保証があります(ピリピ 3:20)。これらすべてをひっくるめて、まったく新し

く造り変えられた、完了したということですから(コリント 5:17)。

2) 自分への見方-エペソ 1:3(人間的条件、自身、バック、経験)

神様がすでになさったことを信じて、自分自身を見るようにしましょう。古いままの見方で、世の基準で外見や才能、比較によって見ることはやめましょう。すでに霊的な祝福を受けた主人公です。そのように祝福された自分を見るのが信仰生活のスタートです。キリストが完了してくださったので、ただ信じて、自分を見つめ直してみましょう。自分の条件、経験は、まったく関係ありません。3) 祝福の自分を前提に-マタイ 6:31-32、使徒 1:7

祝福の自分を大前提にするのです。それゆえ、イエス様は弟子たちに祈りを教えられました。すべて天の父がご存知なので、祝福の神の子どもであることを信じなさいということ。異邦人が求めることを求めるのではなく、神の国とその義とを求めなさいと言われました。最後にも、弟子たちが国の解放を尋ねたとき、信仰があるなら、そのようなことはテーマにならないと言われたのです。

2. 神様が私のためになさることを信じる時、真の希望を持って立ち上がるようになる。

1) ヨハネ 14:16、26、27

イエス様は、もうひとりの助け主、聖霊を送ると言われました。聖霊の働きが現れるので、神様がなさることを見る(伝道)ようになると言われました。心を騒がせることなく、神様からの平安を味わうことができると言

われたのです。ルカ 11:13 に、悪い者であっても子どもには良いものを与えるので、神の子どもなら求めれば聖霊を与えられられました。神様がなさいます。契約を握るために集中して礼拝に臨みましょう。そうすれば、変化が起こり、伝道の門が開かれるでしょう。人格が変わることは目標ではありません。神様は、御子キリストも与えてくださったのでそのことを根拠にして、すべてを恵みで与えてくださっていることを(ローマ 8:32)覚えましょう。

2) 使徒 1:8-力を得て

神様のなさることを待ち望んでいれば、マルコの屋上の中で現れた聖霊の力が臨み、御座の力、上からの力が与えられます。

3) 使徒 1:8-地の果てまで証人

そして、エルサレムから地の果てまで、証人となると言われたとおり、現場から 237-5000 まで証人として立ててくださいます。神様がなさることです。

4) 絶望的条件、最悪の状況

どんなに絶望の状況でも、ローマまで変え

られました。御座の力が与えられるなら、時空を超越するので、子ども一人が恵まれても、小さなことであっても、237-5000 につながります。神様がなさるので、初代教会は、絶望、最悪の中で成されました。それが Nobody、Nothing です。

5) 不信仰、不平、否定的な言葉

言い訳は不要です。聖霊が注がれ、力を受け、地の果てまで証人となります。不信仰、不平不満、否定的な言葉はいりません。

6) 祈りに専念

神様の約束どおりになることを求めて祈りに専念すれば良いのです。状況に左右されず、祈りましょう。

自分に対する否定的なイメージ、人生への不安などは、信仰を回復するためのサインと受け止めましょう！神がなさったことを信じて告白し、なさることを信じて祈りましょう！過去のせい、環境のせい、人のせい、条件のせいにするをやめて、使徒 1:7-8、ピリピ 4:6-7 を握って希望にあふれる祈りをささげましょう！

1 部-マルコ 14:12-18 義人は信仰によって

なるほど/神様が自分の為になさったことを信じる時、自分を幸いな者と見ることが出来、神様が自分の為になさることを信じる時、真の希望に溢れる人生になり、これこそ信仰生活と言える。

ならば/過去や環境、人、条件のせいにしないで、神様がすでに私の為になさったことを告白し、使徒 1:7-8 を握って希望に溢れる祈りに入ろう！

2 部-使徒 1:7-8 信者の祈り

なるほど/信者が不信仰に勝つのは、力の所在を正しく認めて、素直に Only の信仰を告白し、祈りの答えによる人生を歩む時である。

ならば/不平や不満を捨てて、Only の信者になることと、常に祈れる信者になることを祈ろう！